

今回のテーマは「ロボット」です。『今日日本』では、いろいろな役割を担ったロボットやロボットの競技会などが紹介されています。また、『人物采訪』では、高校対抗ロボット競技会「ロボコン」に参加した高校生がロボット作りに対する熱い思いを語っています。これらの素材をどのように授業に取り入れたらいいか、いくつかのアイデアをご紹介します。

### ●お役立ちロボットのアイデア——グループワーク/発表

自分や周りの人々の生活を見回して、どんなロボットがあれば、生活が便利に、あるいは豊かになるかグループで話し合って発表させる活動です。誰のために、どんなロボットがあればいいかを具体的に考えさせるようにするといいでしょう。

例えば、

- ・ 共働きで忙しい両親のために「料理ロボット」があればいいと思います。
- ・ 仕事で疲れた両親のために「マッサージロボット」があればいいと思います。
- ・ 目の不自由な方のために「盲導ロボット」があればいいと思います。

さらに、それらのロボットを絵に描かせて発表させるという方法も考えられます。生徒たちは絵を描いたり、物を作ったりする学習には、かなり興味を持って取り組みますから、ぜひ試してみてください。

また、将来のロボットについてグループで予測させるのもいいでしょう。時を限定して、「2050年には、～」とか、「100年後には、～」といった表現を使うこともできます。

- ・ 将来、「ドラえもん」のような、友だちロボットができています。
- ・ 100年後には、人間の体の中に入って、病気を治す小さなロボットができています。

### ●人間とロボットの違いについて——アンケート

人間とロボットの関係はどうあればいいのでしょうか。人間とロボットの違いは何でしょうか。それらを生徒たちに意識させるための教室活動として、「人間にできること・できないこと」と「ロボットにできること・できないこと」について、グループで話し合ったあと、クラス全体でアンケートをとってみましょう。そして、人間とロボットの「できること・できないこと」の上位を口頭で発表させてみましょう。

例えば、

- ・ 人間は大きな岩を動かすことはできませんが、ロボットにはできます。
- ・ 人間は計算機を使わなければ複雑な計算はできませんが、ロボットにはできます。
- ・ ロボットは寝ないで働くことができますが、人間にはできません。
- ・ 人間は人を愛することができますが、ロボットにはできません。

あるいは、キーワードをあらかじめ示して、それらが人間とロボットのどちらに特有のものかを考えさせてもいいでしょう。キーワードとしては、例えば、「記憶」「経験」「成長」「意志」「感情」「感覚」という類の言葉を与えたり、「たくさんのことを覚える」「子どもから大人に成長する」「自分で行動する」「人を愛する」「うそをつく」「食べ物の味がわかる」など、文を与えたりする方法があります。具体的には、黒板の右を人間、左をロボットとして、キーワードを書いたカードを、当てはまるほうに生徒にはらせませす。「記憶」など、どちらにもあてはまるものは、真ん中にはらせませす。はるときに口頭でも言わせましょう。

### ●授業で習ったことを生かす——グループワーク/発表

『人物采訪』で、「授業で学んだことを実際に生かす」という内容があります。この部分を取り上げて、生徒たちが学んでいる日本語を実際に生かすとすれば、どのようなことができるかをグループで考え、発表させましょう。それによって、生徒たちの日本語を学ぶ目的意識を高め、動機付けができるようになるのではないのでしょうか。

例えば、

- ・ 旅行に来た日本人に道案内ができる。
- ・ 日本の生徒とメールで文通ができる。
- ・ 日本製のゲームの説明書が読める。

### ●好きなことには苦勞を惜しまない——Q&A/作文

『人物采訪』で、高校生たちは、ロボット作りには努力や苦勞を惜しまないと言っています。この部分を取り上げ、生徒たちに「好きなことには苦勞を惜しまない」という経験があるかどうかを聞いてみましょう。そして、一通り聞いたあと「苦勞してもやりたい大好きなこと」というようなテーマで、400字程度の作文を書かせてみましょう。

### ●経験を通して学んだこと——読解/発表

『人物采訪』に「ロボコンを通して学んだこと」というインタビューがありますが、この部分の読解から始めて、生徒たちに自分が過去に何らかの経験を通して学んだことを発表させましょう。読解のやり方としては、あらかじめ課題を与えたタスクリーディングの方法（課題例：「悠祐君と裕史君は、ロボコンを通してどのように変わりましたか」）や、文章中の「人の意見も聞ける」「お互いを信頼していて、何でも言い合える」などの部分を空白にして、前後の文脈から適当な表現を予測させるなどの方法が考えられます。

### ●自分の街のロボット探し——教室外活動と連携した総合的活動

これは、かなり規模の大きな活動になります。生徒たちをいくつかのグループに分けて、自分の街で活躍しているロボットを探しにいくという活動です。どこで、何のために、どんなロボットが活躍しているかということを調べ、それをポスターにして教室で発表させます。

この活動を行なう場合は、生徒が実際に外に出ていく前に、事前に教師がある程度下調べをしておいて（関係機関に生徒の訪問の了解をとるなども含めて）、ヒントを与えたり、その前に、何よりロボットの定義をきちんとしておいたりするなどの準備が必要です。

「ロボット」をテーマにいくつかの教室活動のアイデアをご紹介しましたが、生徒たちには、ロボットはあくまでも人間の社会をより豊かにしてくれる良好なパートナー（あるいはサポーター）であるという視点で教室活動にのぞむよう指導していただきたいと思います。ぜひこれらの活動を試していただいて、結果を報告してください。

山口敏幸

国際交流基金日本語教育専門家